

# 登山月報

第58回全国高等学校登山大会 神奈川	1
ジュニア登山教室 in 立山2014 報告	2
第17回 JOCジュニアオリンピックカップ2014	4
日本トレイルランニング会議(トランJAPAN) 結成総会報告	5
2014 アラスカ遠征報告 谷口けい	7
第70回 Mountain World	9
【新連載】北から南から ブロック便り	10
【提言3】なぜ指導者が育たないか	11
新刊図書紹介	11
JMA、寄贈図書、編集後記	12

## 第58回全国高等学校登山大会 神奈川 『君の汗 輝く一滴 勝利の雫(しずく)』

8月8日(金)から12日(火)にかけて全国高校総体(インターハイ)登山大会が、神奈川県箱根町箱根山塊(金時山, 三国山, 神山等)において『君の汗 輝く一滴 勝利の雫(しずく)』を大会スローガンとして開催された。北海道から鹿児島までの全国46都道府県より団体男子(A隊)47校、団体女子(B隊)46校、合計93校の選手監督465名、ならびに競技役員、運営役員、協力隊、補助員、関係者289名、総勢754名の山を愛する仲間が、富士箱根伊豆国立公園に位置する箱根山塊に集結した。

今年度より、大会を主管する(公財)全国高等学校体育連盟登山専門部が日山協48番目の加盟団体となったことから、副会長、常務理事、監事など役員7名が大会視察員として現地本部、開会式、幕営地、登山コース入下山口などを視察した。また、大会前日には視察員説明会に出席し大会準備経過や大会財務状況について説明を受けた。視察した役員からは、国体山岳競技の運営準備や大会役員の業務動態に大いに参考になったとの報告があった。

大会初日は、開会式に先立ち神奈川県立茅ヶ崎高校、同立金井高校、私立立花学園高校チアリーディング部によるアトラクションが行われ、式典会場となっ



開会式での神崎会長挨拶

たレイクアリーナ箱根体育館は和やかな雰囲気にも包まれた。開会式では神崎忠男会長から「私は昭和33年石川県白山で開催された第2回大会に出場し登山を楽しむ原体験となった。近年はスポーツライミングが人気を博し、オリンピック競技にもノミネートされている。ユース世界選手権では日本が金銀銅を独占し世界ランキングも1位である。しかし、登山の本質であるより高き、より困難な高みを目指し未知を求めるといふ崇高な目的がこのインターハイにはある。今年は植村直己がマッキンリーで遭難して30年目、マロリーがエベレストで遭難して90年目にあたり、16番目の祝日として「山の日」が制定された記念すべき年である。登山は長い歴史を持ち国民に親しまれているスポーツであるという誇りを持って今後も登山を楽しんでほしい。」と重みのある挨拶があった。

選手は、開会式後に自然観察・救急・気象・天気図作成の知識審査を受け、コース隊編成後、幕営地であるレイクアリーナ箱根グラウンドに徒歩で移動し、設営、炊事審査が行われた。

大会2日目は台風11号の接近が心配されたが、A隊はメインザック行動で早雲山・神山コース、B隊もメインザック行動で金時山・明神ヶ岳コースに挑んだ。



海賊船に乗船する女子隊選手

B隊は矢倉沢峠下林道までチーム行動が採用され、多くのチームが整然と力強い歩みを見せてくれた。女子選手の一部に行動離脱が見られたものの、登山行動中は降雨も無く、その日のうちに全員復帰できた。夕方からは雨となり、台風接近によりテント泊は危険なため、この日の宿泊は体育館での室内泊の措置をとった。

大会3日目は、A隊、B隊とも昨日のコースを入れ替えて登る予定だったが、台風11号が上陸する確率が高くなったため終日停滞の措置を取り、宿泊も体育館での室内泊とした。停滞中にはA隊とB隊の交流会を行い、男女が分かれて行動するインターハイにおいて貴重なコミュニケーションの機会となった。午後から風雨が強くなり、大会本部の英断が評価された。

大会4日目は雨もあがり、A隊、B隊とも予定通り芦ノ湖西岸の三国山コースを登った。男子は北上し女子は南下するコース設定である。コース途中の交差点では、行き交う男女の選手同士によるハイタッチが行われ、インターハイ登山大会の男女を通じた一体感が現れた感動的な場面であった。

大会最終日、台風の影響による相変わらずの大雨で

あったが、設営隊、式典関係者のご協力により、無事に閉会式が行われ神奈川インターハイが終了した。

平成32年には東京オリンピック開催が決まり、多方面から関東地方への関心が高まっている。国内外から年間2千万人が観光に訪れる国際観光地箱根で開催された本大会が、今後の登山界の普及発展に大きく貢献できることを期待したい。

最後にこの大会のために準備段階からご尽力いただいた、神奈川県実行委員会、箱根町関係者、神奈川県高体連登山専門部の方々に深謝の意を表するとともに、箱根山塊に集った若き岳人達が次世代の登山界を担ってくれることを切望する。

(記 青木秀則)

大会成績			
団体男子 (A隊)		団体女子 (B隊)	
優勝	長崎北陽台 (長崎)	優勝	富士宮西 (静岡)
第2位	岩手 (岩手)	第2位	基町 (広島)
第3位	千葉東 (千葉)	第3位	大村 (長崎)
第4位	広島学院 (広島)	第4位	城ノ内 (徳島)
第5位	藤枝東 (静岡)	第5位	盛岡第一 (岩手)
第6位	萠崎 (山梨)	第6位	宮城第一 (宮城)

## ジュニア登山教室 in 立山2014 報告

今年で5回目を迎えた「てっぺんめざしてワイワイ登ろう！ みんな集まれ！ ジュニア登山教室 in 立山2014」が、国立立山青少年自然の家を宿泊地として8月17日(日)～20日(水)の3泊4日の日程で開催されました。この活動は、(公社)日本山岳協会ジュニア育成事業の一環として、本会と国立登山研修所が主催し、日本山岳遺産基金・(株)山と渓谷社の協賛で行われているものです。また、(独)日本スポーツ振興センター、富山県教育委員会、立山町、国立立山青少年自然の家、富山県立山カルデラ砂防博物館の後援をいただき、富山県山岳連盟の皆さまのご協力により実施されました。

17日朝7時30分、新宿駅西口をバスが出発。途中のサービスエリアで埼玉県と群馬県からの参加者が合流し富山を目指しました。上信越道通行止めの影響により少し遅くなりましたが、芦峯寺で富山県からの参加者が合流し小学1年から中学2年までの男子17名、女子22名、合計39名の子ども達が集まりました。この中には招待参加の養護施設の子ども6名が含まれています。今後も公益法人の責務として、このような子ども達を招待していく方針です。まず、自然の家での

開校式の前に称名の滝を見学しました。この滝は弥陀ヶ原台地の縁から称名川へ、4段350mの日本一の落差を誇ります。この日は増水期のみ出現するハンノキ滝(落差約500m)も右手に見られ、下界の暑さを忘れる爆風と水しぶきに歓声が湧きました。

開校式では、神崎会長から安全登山心得の話、富山岳連の松本会長から富山の自然を満喫してほしいとの話を聞きました。夜のフリーセッションでは6つの生活班の名前を決めました。生活班は学年の枠を超えた6～7名の子ども達で構成され、食事、つどい、見学



称名の滝にて

体験などで行動を共にします。

18日は午前中にカルデラ砂防博物館を見学しました。博物館の飯田先生によるピンポン球を用いた雪崩実験に子ども達は大喜び。日本初の氷河が立山で確認された話や、立山に見られる動植物の説明も大変勉強になりました。その後、徒歩で国立登山研修所に移動し、おいしいカレーライスの昼食を食べました。昼食後は、神崎会長から昨年の立山登山の写真と地球の3つのヘソ(北極点、南極点、エベレスト山)のお話を聞きました。

午後からはクライミング体験です。富山岳連や長野岳連の皆さんにビレー役をお願いし、みんな汗びっしょりになるまでがんばりました。中には一番難しいルートをトップまで登れた人もいて、会場は大きな拍手に包まれました。夕方は自然の家に戻り、「おうちへの手紙」を書きました。自然の家の絵葉書に立山の楽しさをしたため、家族や友達に想いを伝えました。

19日は待望の立山登山の日。天気は高曇りで何とかもちそうです。今年から奥大日岳(2606m)を登るコースも加わり全部で4コース。Aコースは1班(9名)と2班(10名)に分かれ、1班は立山(大汝山3013m)、2班は立山(雄山3003m)が目標です。Bコース(7名)は浄土山(2831m)に登り、途中で親子連れのライチョウ3羽を見つけ、子ども達は大喜び。Cコース(5名)はゆったりと室堂から天狗平を巡ります。標高2705mの一ノ越より上はガスに包まれていましたが、時より雲間から室堂平や山崎カールが見えました。男子のみ8名で奥大日岳を目指したDコースは、往復6時間ものタフなルートを見事に登り切りました。39名の子ども達、そして15名のスタッフの皆さん、本当にお疲れさまでした。

宿泊最終日のこの日の夜はキャンプファイヤーです。本木顧問の始めの言葉の後、「家路」の歌、営火入場、分火、点火、「燃えろよ燃えろ」の歌、田中前会長が



ピンポン球を用いた雪崩実験



国立登山研修所でのクライミング体験

扮する火の神の言葉と厳肅な雰囲気の中、点火の儀式が行われました。その後のレクリエーションでは、借り物ゲーム、○×クイズなどで楽しむ子ども達の笑顔が炎に照らされて、生き生きと感じられました。レクリエーションの途中では、スタッフからヒップホップダンスを全員が教わり、子ども達にとって忘れられない思い出になったことでしょう。

最終日の20日は、記念撮影の後に閉校式。4日間のふりかえりでは、イラストを交えながら頑張ったことや楽しかったことを書きました。その後、本木顧問から一人ずつ修了証と記念バッチが手渡されました。閉校式の後には、まんだら遊苑「遥望館」を見学。立山信仰の歴史や文化、四季の自然を映像で体験しました。上映終了後にスクリーンが跳ね上げられると雄大な立山連峰に誰もが目をうばわれました。敷地内にあるカモシカ園を見学後、立山駅前で富山県のお友達と手を振って別れ、バスは帰路に就きました

ジュニア登山教室 in 立山は、3泊4日の日程中に盛りだくさんのプログラムが組まれています。参加した39名の子ども達から、「立山の大自然の素晴らしさに感動しました。」「友だち同士で支えたり支え合っただけの4日間でした。」「改めて友だちの大切さを強く感じました。」などの感想が寄せられました。この教室のねらいである「自然のすばらしさ登山の楽しさを学ぶ」、「共同生活により団体生活のルールを理解する」、「自立心を養い自分で考え行動できる」という目標が達成されたようです。

最後になりましたが、この活動のために準備段階からご尽力いただきました関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

(記 青木秀則)

## 第17回 JOCジュニアオリンピックカップ2014

この大会の第1回は1999年3月、埼玉県川口市のクライミングジムPUMP 1号店での開催だった。当時のリザルトを見ると、参加者は男子の高校生以上が68名、中学生以下が4名。女子は全体で21名。100名に満たないが、当時の国内大会としては少ない数ではない。ちなみにこの時の優勝者は今回のチーフルートセッターである松島暁人。その他に茂垣啓太、渡辺数馬、小林由佳と現在も現役で活躍する選手の名前があがっている。

その後は神奈川の山岳スポーツセンター、埼玉の加須市民体育館での開催を経て2001年の8月より、現在の富山県南砺市(当時は城端町)桜ヶ池クライミングセンターでの開催が定着し、この地での開催は14回目となる。地元の南砺市そして富山県山岳連盟には本当に長期にわたってお世話になり続けてきた。また、今後の開催についても前向きな検討が行なわれていると聞く。本当にありがたいことで、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

さて、本年は全国高等学校総合体育大会との日程の兼ね合いから、8月2日から4日と通常よりも早い時期での開催となった。幸い好天にも恵まれ、適度に曇るときもあって、選手にもスタッフにも良い条件での大会だった。

競技の進行は例年通り、フラッシングの予選で参加者数に応じた決勝進出者による決勝、そして男女それぞれ決勝で最上位の成績をおさめた選手がクリスタルカップを手にするという形である。なお基本的な順位は、年齢別グループごとに付けるが、使用するルートは共通である(アンダーユースB男子を除く)。

女子は、野中生萌(東京)がボルダリング・ワール

ドカップ2位の實力(直前の関東ブロックでも、ボルダリーについては他の選手とは次元が違う印象だった)を見せつけるように、唯一の両ルート完登で予選を通過。そのまま野中が逃げ切るかと思われたが、決勝ではルートの長さもあってか田嶋あいか(三重)が、2位を大きく引き離しての優勝を決めた。

男子では清水裕登(大阪)が、ユースAの波田悠貴(埼玉)をジュニアの意地を見せてわずかの差でおさえて総合優勝。また清水は予選でただひとり両ルートを完登しているが、第1ルートについては完登したのは清水ひとりだった。この他ユースBの榎崎明智(栃木)の長身を生かした登りが印象的だった。

今回の大会の前後に、参加資格の問題がそれぞれ1件ずつ判明している。またその他、有力選手が参加申込の遅れから参加できないというケースもあった。それらについてここで詳しく述べることはしないが、今後クライミング競技が発展して行く上では、選手の資格管理などは重要な意味を持つ。各山岳連盟・協会の担当者の方々には選手登録の事も含め、ミスや遅れのないよう対応をお願いしたい。

(文=北山 真、山本和幸 写真=北山 真、安井博志)



大会会場



榎崎明智選手



表彰式

アンダーユースB女子	
1位	小島 果琳(岐阜県 岐阜聖徳学園大付属中)
2位	伊藤ふたば(岩手県 盛岡市立東松園小)
3位	曾我 綾乃(埼玉県 川口市立幸並中)
アンダーユースB男子	
1位	小西 桂(神奈川県 横浜市立早瀬中)
2位	高島 悠吾(千葉県 松戸市立小金北中)
3位	西田 秀聖(奈良県 大和郡山市立昭和小)
ユースB女子	
1位	清水 夏子(千葉県 習志野市立第七中)
2位	菊沢 絢(千葉県 流山市南流山中)
3位	戸田 萌希(山梨県 山梨市立笛川中)
ユースB男子	
1位	檜崎 明智(栃木県 宇都宮市立旭中)
2位	盛田 康平(東京都 世田谷区立緑丘中)
3位	久貝 悠太(京都府 京都学園高)

ユースA女子	
1位	田嶋あいか(三重県 県立津高)
2位	義村 萌(三重県 県立津東高)
3位	野中 生萌(東京都 日出高)
ユースA男子	
1位	波田 悠貴(埼玉県 県立久喜工業高)
2位	緒方 良行(福岡県 県立明善高)
3位	飯田 譲(千葉県 船橋市立船橋高)
ジュニア女子	
1位	三浦絵里菜(宮城県 東北学院大)
2位	坂井 絢音(埼玉県 山村学園高)
3位	原田 朝美(長崎県 県立大村高)
ジュニア男子	
1位	清水 裕登(大阪府 追手門学院大)
2位	高田 知堯(鳥取県 県体育協会)
3位	佐々木 原(千葉県 県立千城台高)

## 日本トレイルランニング会議(トレランJAPAN) 結成総会報告

日本山岳協会(日山協)は公益社団法人化に伴い、4つのワーキング・グループ(WG)を立ち上げ、喫緊の課題を検討することになった。課題であったトレイルランニングについては、事業WGが担当することになった。トレイルランニングについては、かねてより競技部のトレイルランニング小委員会で約6年に及ぶ調査研究を重ねてきた。トレイルランニング競技は今や全国各地で開催され、地域の発展に大きく貢献するようになり、競技力も向上し、急速に発展している。

日山協のトレイルランニング小委員会は、先の全国調査に引き続きトレイルランニングを競技として中央競技団体としての条件整備を進めるべく下記の通り全国の関係者による組織を設定し、日本トレイルランニング会議(仮称)を結成する事になった。

全国都道府県岳連・協会及びトレイルランニングを開催している160団体に呼びかけ2014年8月2日(土)13時より岸記念体育会館において、沖縄を始めとする全国から44団体の代表が集まり、会議が行われた。

司会の日山協トレラン小委員会の撫養千明委員が開会を宣言し会議がはじまった。

主催者発起人代表としてNPO法人北丹沢山岳センター杉本憲昭理事長より挨拶を行った後、日山協の八木原罔明副会長と日本オリエンテーリング協会木村圭司業務執行理事よりご挨拶を戴いた。

日本トレイルランニング会議の設立基調提案として発起人の宮地由文より経過・趣旨説明・議案承認の提

起を行った。

### —日本トレイルランニング会議結成の基調方針—

1. 日本におけるトレイルランニングの自立には
  - ①日本のスポーツ界にどう位置づけるか。
  - ②トレイルランニングの中央競技団体としてどこに位置づけるか。
2. 中央競技団体の主な事業
  - ①トレイルランニングの普及振興
  - ②トレイルランニングに関する大会等の開催
  - ③トレイルランニングに関する公認指導者及び公認審判の養成と資格認定
  - ④トレイルランニング大会に関するルールの制定
  - ⑤山岳自然環境の保護活動の推進
  - ⑥国際レースへの啓発及び指導と国際交流
  - ⑦山岳スポーツの中央競技団体として日本においては日本山岳協会がある。

日山協は、過去に国民体育大会(国体)において山

一人の男を救うために、世界10カ国の登山家が集結した。  
“生きること”を感じる、感動のドキュメンタリー!

# アンナプルナ南壁

## 7,400mの男たち

www.7400-movie.com

9月27日(土)

有楽町イトシア イトシアプラザ 4F  
エ.テアトルシネマグループ  
ヒューマン・ラストシネマ有楽町  
03(6259)8608 www.ttcg.jp

登山ファン必見のロードショー!  
シネ・リーブル梅田、名演小劇場、シネ・リーブル神戸ほか全国順次公開

岳競技の縦走競技(トレイルランニング)を30年間行ってきた実績がある。

国体の山岳競技とは、毎年実施される国体の正式競技の一つで、第2回より競技として採用。第35回(栃の葉国体1980年、栃木県)から、正式競技となり登攀種目の他に踏査種目や縦走種目という登山道をトレイルランニングするタイムレースも実施していたが、縦走と登攀種目のみとなり、さらに第63回(2008年、大分県)から縦走が廃止され、ボルダリングが新たに取入れられた結果、現在のようにスポーツクライミングに属する種目のみとなった。これらの競技は日山協が競技運営している。

国体種目であった縦走競技とは、各都道府県で選抜された2名が一斉にスタートし、2名の合計タイムによって各県の順位が決まる競技で、各選手は規定の重量のザックを背負い、登山口をスタートし、山道を走って頂上付近のフィニッシュまでのタイムを競う、競技でした。開催県では、その県のスペシャルな「山」を用意し、東日本・西日本とでは地質にも違いがあり、その地方の山々のコースの特徴によって、微調整される『縦走競技』のおもしろさでした。

### 3. 日本トレイルランニング会議の作業として

- ①トレイルランニングの定義及び、規定の創設。
- ②トレイルランニング用語の統一。
- ③トレイルランニング大会の基準作り(大会規模・人数、シングルトラックの整備のランク付け等)
- ④公認トレラン大会の認定業務
- ⑤選手の管理、登録制
- ⑥公認審判員の創出
- ⑦トレラン選手育成と強化普及
- ⑧トレイルランニング公認指導者・競技力向上指導員養成カリキュラムの作成
- ⑨日本代表の選定業務と公認
- ⑩国体山岳競技としてトレイルランニング種目再設のための研究
- ⑪選手安全確保(保険加入等)

7年前に発足した日山協のトレイルランニング小委員会では国際基準に見合ったトレイルランニングの日本における指針や、トレイルランニングの競技規則の原案などを日山協競技委員会総会に提起してきた。

日本トレイルランニング会議結成にあたり結論は、

- ①トレイルランニングのナショナルセンターの創設(日山協内に設ける)
- ②日本におけるトレイルランニングの陸連や他の競技団体との調整



- ③トレイルランニングの日本体育協会との協議による競技としての公認。

以上を踏まえて、今秋の9月24日(水)に岸体育会館で行われる第2回日本トレイルランニング会議に総結集していただきたい。と締めて基調提案を行った。

その後、本会議の配布の資料として設立趣意書、日本トレイルランニング会議定款及び日本トレイルランニング会議会長杉本憲昭氏をはじめとする役員、日山協トレラン指針(案)、日山協トレラン競技規則(案)、トレラン保険等の資料説明を司会の撫養千明委員より提起した。

質疑応答に移り主な質問事項として以下の発言があった。

松本大氏(JAPANスカイランニング協会): 法人設立時の理事に選手が1人も入っていないが選手にも声をかけたのか? 選手の声が届かないのではないかと?

宮地: この会に賛同する多数の選手にお声掛けをしてきた。本日は諸事情や多忙により欠席の連絡を戴いている。今後の組織への協力の確約も戴いている。

千葉達雄氏(伊豆トレイルランニングレース): UTMF・スカイランナー等と分裂組織では無く選手も含めた組織が理想だと思うが?

宮地: 当然そう思う、日体協、日山協を元とした中央競技団体であり、選手登録によるトレランの一本化を進めて行きたい。

田村努氏(環境省自然環境局国立公園課): 国立公園内の大会には環境省職員を派遣しデータを毎回とっています。設立趣旨の「トレイルランニングに係る自然保護活動」とあるが是非実践してもらいたい。

宮地: 山を基本とする以上トレランに係る自然保護活動を一層進める。

喜久里忍氏(沖縄国頭トレイルランニング大会): 指導員がいないと大会が開催出来ないのか? 大会のランク付の件の質問。競技規則が資料で有るが沖縄

特有の事情もあるので各地域に有った柔軟な対応もしてほしい。選手目線の考えも理解できるが、選手の意見を多く取り入れれば大会運営が出来なくなってしまう危惧が有る。

宮地：日体協の他の競技団体にも見られる通り、統一競技規則に対して地方の特色ある大会はローカルルールを設定して行っている。それに準じたいと思う。

木村正和氏（八重山トレイルレース）：安心して大会運営できる保険制度を早く作ってほしい。大会運営側のリスクが軽減できる様な組織にしてほしい。

宮地：ご期待に沿うように共に組織を作り上げたい。

その他以下の方々よりご自身の体験や組織の報告、この組織に対する貴重なご意見を戴きました。

和歌宏分氏（大分市商工農政部産業振興課）、宮崎英樹氏（山と溪谷社）新しいトレラン雑誌の紹介他。新庄雅文氏（(株)技屋 トレラン王国）、辻祥光氏（関西トレイルランニングサーキット）、大曾根弘氏（前神奈川県山岳連盟会長）。

全体の方向性を確認し、次回9月24日の会議への参集呼びかけを日山協の佐藤旺副会長より提起され、閉会した。

（文責 日本トレイルランニング会議理事長 宮地由文）

## 2014アラスカ遠征報告

谷口けい

今回訪れたデナリ南麓ルース氷河最上流部で、幾度かの偵察行をしつつ、4つの自分たちらしい登攀をすることが出来た。何よりも贅沢だったことは、多くの人が集うアラスカの地で、この間まったく他人に会わなかったことかも知れない。そのことは、自分とパートナーと自然（山も空も大地も）とが、純粋に向き合うことが出来る環境を作り出してくれたと思うのだ。だから、より雑音無く、自分たちのラインに向かうことが出来たと思うし、美しくも厳しい自然の姿を受け止めることが出来た気がする。



### Prelude プレリュード

—Dan Beard 南壁バリエーション / V, snow & ice / 7hrs.

我が家（BC）から南壁内院まで1時間半のアプローチ。南壁に向かって右端、取り付きのベルクシュルントは、偵察時の予想通り、うまい具合に崩れた箇所が埋まっていて難なく突破。スノーバー、岩ギア、スクリューで支点を取りながらのコンテで快適に登る。広いクーロワール状から、三角岩を回り込み、小さな雪稜を乗越して左方ヘトラバース。壁のほぼ中央を上部へと向かう。上部ヘッドウォールを右上し、チムニー状の隙間に導かれて頂上プラトーへうまい具合に出た。氷と雪の広いプラトーに出る頃には雪雲に包まれてしまったけれど、2つの小さな偽ピークを越えると、そこは広い頂上だった。

### Concerto コンチェルト

—peak11,300 East Spur, 東壁～Point KJ / AI4+, M5+R / 18.5hrs.

4:40 下部雪壁の登攀開始。クーロワール内の核心、

ボロボロの氷と岩と、スカスカの雪を騙しだまし登る3ピッチ。これを越える頃、上部に朝陽が差して雪崩が始まる。雪崩のラインを避けつつ、クーロワール上半の雪壁をコンテで登る。12:30クーロワール終了点まで登りつめる頃には、ガスが濃くなり視界がほとんどなくなってしまった。ガスの中に見え隠れする上部岩壁帯は、想像したより傾斜がある。ここから先へ進んだら、もう戻ることは出来ないね、と話しながらも、戻るという選択肢はどうも無いようだった。

ガスの中に次々現れるその姿は、オフウィドウスあり、チムニーあり、スラブ、チョックストーン、スカスカの雪、そして積木のような不安定に重なり合った岩、砂利の混じった硬い氷と、たっぷり私達を楽しませてくれた。大奮闘の末に上部雪壁と雪稜を越えて頂上に出たのは23時過ぎ。ピンク紫に暮れゆく空に、デナリの姿があった。そしてもちろん、闇にならないままに、暁の色へと空は移り変わってゆく。あまりにも美しく、痛いほどに冷たいアラスカの空の奏だった。

## Nocturne ノクターン

—Dan Beard 東壁 / WI4, AI5, M5 / 12hrs.

頂上プラトーからの懸垂氷河の脅威に触れずに登れそうなラインを、東壁に探る。右寄りのV字ガリー右俣をコンテで登り、どん突きから左上するガリーへ入る。流水氷と岩と雪のミックスを9ピッチ、東岩稜沿いのコーナーから上部スノーリッジへ。アラスカらしい、両雪庇と氷のリッジを高度感いっぱいに登る。上部はセラック帯。氷河の割れ目をつないで頂上プラトーを目指す。頂上直下で、大きな割れ目(クレバス)に遭遇するが、なんとかアイスクライミングで突破。Dan Beardの広い頂上で、またまた雪雲に巻かれて視界是最悪。散々彷徨した挙句、幸運にも広がり出した青空の下に、南壁への下降路を見出して、無事に東壁～南壁への縦走を完成させることができた。満月の夜のこと。

## Sonatine ソナチネ

—peak11,300 East Spur, 東壁～P3 / WI4, M4 / 10hrs.

何処からも全景を見ることの出来ない、pk11,300 東壁。ルース氷河上流部を偵察していた中で、遠目に認めた一本の明らかな氷のライン。しかし取り付きが分かりづらく、また陽が当たるとルートそのものが雪崩の通り道と化すために、なかなか近づけなかったライン。夜中、と言ってもヘッドランプ無しでも大丈夫な自然の明るさがある中、ガリーの登攀開始。聞かないのに月が神々しく明るかった。下部ガリーはコンテ。上部ガリーは、流水氷とS'Niceと時々岩。プロテクションは岩が一番安心で、時々スクリュ。しかし氷の支持力は全てあやしい。スタカットで5ピッチ+

α。最上部はコンテでコル(稜線)まで上がり、上部岩稜帯の登攀へ。クラックを使って岩と雪の3ピッチ半でP3頂上へ。

### Data

遠征期間 : 2014年4月21日～6月5日(氷河上38日間)

チーム : team Wasabi 2014 (谷口けい、和田淳二)

エリア : アラスカ州デナリ国立公園、Ruth Amphitheater, Ruth West Fork

登攀したピークとルート、内容 :

① Dan Beard (10,260ft) South Face variation "Prelude" / V, snow & ice / 7hrs.

② Peak 11,300 (11,300ft) East Spur, Point KJ "Concerto" / AI4+, M5+R / 18.5hrs.

③ Dan Beard East Face "Nocturne" / WI4, AI5, M5 / 12hrs.

④ Peak 11,300 East Spur, P3 "Sonatine" / WI4, M4 / 10hrs.

ギア :

60m ロープ×2, スノーバー×3or4, スクリュー×8 (19cm×1, 16cm×4, 13cm×3), ピトン×3 (K2, A1), ナッツ#4-11, キャメロット#0.4-2or3, トライカム#1-3,4, アルパインドロー×12, 捨て縄, ツェルト, jetboil sol

特記事項 :

\*全ての登攀において、下降時の支点は捨て縄のみ(岩とアバラコフ)。岩ギア残置は無し。

\*全てのラインにおいて、雪崩のリスク、セラックの処理、クレバス対応、ルートファインディングといった、クライミング技術以外の能力が求められる。日中晴れると雪崩が頻発するので、登攀や下降のタイミング(時間帯)の見極めも必要。



極寒のエベレストを制した究極の肌着!!

ひだまり

超肌着力 想像をはるかに超える“保温力”



## 第70回 Mountain World

### 11年越しに実らせた中年クライマーの夢

池田常道

ライアン・ジェンキンズ40歳、ケヴィン・クーパー47歳。ふたりのコロラド・クライマーがアラスカのルース氷河で11年越しの夢を実らせた。東にムースズ・トゥース、西にディッキー、1000m級の岩壁にはさまれたルース氷河中流部はゴルジュと呼ばれてクライマーを惹きつけてきたが、ディッキーの南に位置するジョンソン(2579m)北壁は落ちなかった。

1987年に挑んだチャーリー・サッサラとデイブ・マクギヴァンは、頂上の右よりに突き上げる顕著なクローワール(エレベーターシャフトと呼ばれた)に挑んで雪崩に叩き落され、サッサラが命を落とした。89年のジム・スウィーニーとデイヴィッド・ナイマンは、途中の氷壁が崩壊して転落。雪崩に脅かされながら、1週間かけて脱出するというサバイバルを演じた。エレベーターシャフトは95年、ダグ・シャボとジャック・タックルによって登られた。92年から数回、その周辺をくまなく調べたシャボの努力が実ったのである。

一方、直接頂上に突き上げるダイレクトラインは、1990年に挑んだオーストリアのアンディ・オルクラールが途中で敗退したまま未踏で残っていた。彼が挑んだのは7月だったので、スラブに張り付いていた氷は落ち、ほとんどプロテクションの取れない岩が露出していた。行き詰った彼はその信条に反して穴をうがち、カパーヘッドを1個打ち込んで懸垂下降した。

ジェンキンズとクーパーがこの壁を目指したのは2003年のことだった。90年代なかばにエステスパークで出会って意気投合したふたりは、「なにかでかいこと」をやろうと、ジョンソン北壁にやってきたのだった。しかし、本番の前にウォームアップのつもりで挑んだムースズ・トゥース西壁から下降中、アンカーを取った岩塊が氷からすっぽ抜けて転落、ふたりとも負傷して敗退の憂き目を見た。

\*

このような大物をやるには未熟だったと自覚したふたりは、一人前のアルパインクライマーになるべく、再挙を期してトレーニングに明け暮れた。そのうち結婚し、子どももできた。ジェンキンズは不動産業者として成功し、クーパーは建設業を営んでいたが、ジョ

ンソンへの思いは絶ちがたく、心の片隅に温めていた。

再挙を決意させたのは、前年秋にコロラドを襲った水害だった。クーパーが機材一切を流されて職を失ったため、12月に予定していたパタゴニア遠征を中止せざるを得なくなった。せめてもの代替案は、11年前に涙を呑んだジョンソン北壁だった。さいわい、マッグズ・スタンプ基金から2000ドルの援助も決まって資金のメドもついた。そして、北壁のダイレクト・ルートは、まだ登られずにふたりを待っていた。

2014年4月、入山したふたりは、壁のスラブが氷におおわれているのを目にして安堵した。オルクラールとちがって、ふたりはここをアイスクライミングで突破しようと考えていたからだ。

壁の下部には幅100mに及ぶルーフが立ちはだかっていた。2日間かけてこれを突破したふたりは、その上端にそって180mトラバース、氷雪の最も厚いコーナーに取り付いた。AI5の200mあまりを同時登攀し、わずか5カ所のビレイアンカーを取っただけで中間部まで登り詰めた。その先では、足元から解けだす氷壁と競争するように登って、4日目の午前4時、頂上に抜けた。隣のグローヴナーとのコルに下り、キャンプに帰ったのは、出発以来81時間後のことだった。

この壮麗な1220mのルートをつたりは「天国への階段(Stairway to Heaven)」(M6、WI4、AI5+X、A1)と名付けた。1971年にレッド・ツェッペリンがリリースした名曲のタイトルである。



ジョンソン北壁全景と登攀ライン。  
ずっと右の顕著な切れ込みがエレベーターシャフト。



登攀を終えたジェンキンズ(右)とクーパー。

## 北から南からブロック便り 九州ブロック

九州地区山岳協会(九山協)は2年毎に事務局を担当し、取り組みは、4月に総会、7月に理事会、秋に岳人の集いを行います。また大会として、国体ブロック大会、九州ジュニアクライミング大会、九州カップクライミング大会の3つの大会を行っています。

総会は当年度の事業計画を審議し、さらに各県の取り組み、課題等話し合い、一泊を原則として、各県役員間の親睦を兼ねている。今年の総会は沖縄県であり、総会翌日、玉辻山と古巣山に登りました。

理事会はブロック大会に合わせて行い、事業の進捗状況の報告、及び総会同様各県の取り組みの報告とか、九州の登山界の種々の話題について意見交換をします。最近話題になっているのが、ブロック大会での審判の服装、選手のユニホームの事、山岳会への加入者減の問題などです。

岳人の集いは九州8県持ち回りで、審判員は各県から原則2名出すことにして、運営は開催県のスタッフで開催。九州ジュニアクライミング大会も各県持ち回りで開催。今年で14回目。審判、スタッフ共に開催県の負担で行っている。小学生は男女同一、中学生、高校生は男女別々のカテゴリーで行います。この大会はクライミングを若い人たちから拡大しようとすると共に、ジュニアの強化の一端を担った大会です。近年参加者が徐々に増加し、今年の熊本大会では74名の参加で決勝なしの一発勝負でやらざるを得ませんでした。九州カップクライミング大会は今年で9回目。ミドル(OS5.11以下)、オープン(OS5.12以上)男女4つのカテゴリーで、福岡のアクションクライミングウォールで行っています。この大会は名の通り、九州カップなので上級者の出場が多く、競技に徹し、九州クライミング競技力向上に貢献する大会です。

次に各県山岳連盟の動きを報告します。

### ●福岡県山岳連盟

加盟団体はそれなりに活動しているものの、岳連としてそれをまとめ切っていない嫌いがある。そこでアルパイン指導員としての誇りを鼓舞して、レスキュー講習会等を中心に活動を開始した。クライミングはクライミング教室を定期的に関き、成果を上げている。

### ●佐賀県山岳連盟

加盟団体が少なく、特に一般山岳会は高齢化が進み、活動は活発とは言えないが、クライミングの活動は活



玉辻山山頂

発である。本年から県体協とタイアップして“チャレンジ・スポーツ事業”に取り組むことになった。

### ●長崎県山岳連盟

今年国体の開催で、このことを中心に活動。一方遭難対策委員会を中心にレスキュー研修会を開いたり、地元の山のルート整備等の遭難対策にも力を注いでいる。

### ●熊本県山岳連盟

ブロック大会、九州ジュニアクライミング大会の開催でジュニアクライミング教室を強化。さらに「安全登山教室」を年4回以上開催し、さらに県民体育祭で山鹿震岳に登ることになり、また阿蘇山のルート点検、整備をやっている。

### ●大分県山岳連盟

加盟山岳会での登山知識や技術の継承がままならぬ状況で、県連として登山祭と沢登り(8月)、岩登り(10月)、氷雪技術(1 or 2月)の研修会を実施している。また昨年より小学生4~6年生を対象に「ジュニア登山教室」を開いている。本年より山岳会に所属していない人たちを対象とした「登山教室」を開くことにした。

### ●宮崎県山岳連盟

次の6つの講習会、①高齢者の安全登山②岩登り③沢登り④氷瀑⑤セルフレスキュー⑥雪上歩行、から年間4つを選んで実施し、岳連の活性化に努めている。その他県民体育大会として、縦走競技、踏査競技をやっている。

### ●鹿児島県山岳連盟

国体の関係からスポーツクライミング競技の事業が主流を占めている。特にクライミングスポーツ少年団を結成し、ジュニアの育成に努めている。また、この少年団は縦走登山や沢登りを体験し、心身の鍛錬を行っている。そしてこの少年団の活動には保護者のかかわりが大きい。

### ●沖縄県山岳連盟

加盟団体が少なく、岳連として十分な活動はできないものの、県内の山のルート整備などをやっている。自然の岩場がかなりあるので、クライミングは活発である。(記 福岡県山岳連盟会長 足達敏則)

## 【提言】その3 なぜ指導者が育たないか

大阪府山岳連盟理事長 飛田 典男

全国の山岳会の実情を把握できているだろうか。大阪の状況で説明すると66団体が加盟している中で指導員の検定基準に記載されている要項を必要としている加盟団体は一割程度である。大多数の加盟団体はロープを必要としたりラッセルをしながら山に登ることなど考えてもいないのである。もっと言えば無雪期であっても降水確率が高い時には山には入らないのである。この実態は大半の方が理解していながら何等か手が打たれていないのである。尤も、その様な山行きであれば手を打つ必要もないのかもしれない。と考えると、とんだ思い違いである。

指導員に関する実態調査を10年前に行った際に浮上したのは、従来の山屋が考えていた高度な山の知識や技術を持つ指導者は求められていないという事実である。大多数の加盟団体が必要としている実態に即した指導者を育てる仕組みを早急に構築しなければならなかった。それが大阪府山岳連盟の認定する「登山インストラクター制度」である。ハイキングを主体として活動する団体でリーダー的な立場にある方々に必要な知識と技術及び指導力を見直す機会として捉えていただき、これを連盟が認定しようとする制度である。加えて現行の指導員養成講習会の主な問題点は、第1に資格取得までに時間と費用が掛かり過ぎる。第2に加盟団体に所属していなければ受講できない。第3に更新手数料を払い込めば活動の如何に係わらず資格更新される。(継続した指導者の育成ができていない。)第4に専門科目を検定する主任検定員がいない。である。

そこで「登山インストラクター制度」では総てこれらの裏返しを図った。春と秋の2回受講機会を設け、昨今の就労形態を考慮して春は平日、秋は休日を主体とした講座日程を組んだ。座学4時間、実技6時間の養成講習の上、実技(前夜発ビバーク、計画書、概念図、読図、歩行、岩場通過等)と座学(緊急時のシュミレーションをグループ討議)の検定及び論文を提出させ採点し総て合格ラインに達していれば最短3か月で認定書を授与するものとした。費用は2万円とするが、合格するまで面倒を見ることとし、必要に応じて補習講習会を開催する。参加資格の枠を取り払い誰でも受講できるものとした。更新は3年毎に指定講習を受講することで知識と技術の陳腐化を防いだ。また、この講習会とは別に救急法については日赤の「救急法救急員養成講習」を修了し修了検定合格を条件とした。体力

的にはチャレンジ登山(約30kmを8時間)の踏破できるレベルを求めることとした。

現在、登山インストラクターは約50名が認定を受け活動している。この中から指導員並びに上級指導員も育ってきている。この事例にあるように一貫した教育システムとこれを支えるコーチとサポート体制を整えた上で、多くの登山者に安全登山について正しい知識と技術及び指導方法を持った指導者を育成することが我々の使命ではなからうか。

今後はより一般的な「スポーツリーダー制度」を組み込んだしくみを標榜している。

本論は読者の皆さんのご批判を頂戴しながら新たな方向付けへの一助となることを願っている。

## 新刊図書紹介

### 『日本の森100』

(一社)日本森林インストラクター協会・編著

「森の目利き」=日本森林インストラクター協会の選定による、森を訪ねるガイドブックが刊行された。多くの人々に訪れてほしい日本の多様な森100選。カラー見開きでひとつの森を紹介。森の特長や見るべきポイントを明示した上で、適切なコースを紹介し



て、役に立つ知識も盛り込まれている。自然志向の人や登山愛好者はじめ、森林インストラクターを目指す人の経験値向上まで幅広く役立つ本である。

A5判(148×210mm)、並製、224頁、定価1,980円+税、2014年5月23日発売、山と溪谷社刊

NZ随一の好展望を誇るスカイライン・トレッキング

## ルートバーン・トラックと マウントクック 9日間

発着地 東京 旅行代金 ¥578,000~¥598,000

出発日 11/21(金)・12/5(金)・1/16(金)・2/13(金)・3/6(金)

※燃油サーチャージ(2014年8月25日現在:目安約50,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員

 アルパイン ツアーズ サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海軍ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

**日時** 平成26年8月6日(水)  
17時30分～20時20分  
**場所** 岸記念体育会館103会議室  
**出席者** 神崎会長、八木原・國松・佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺、西内、仙石、森下、京才、水島、瀧本各常務理事、中島監事(理事12名、監事1名出席)  
**委任**：青木常務理事

### 1. 議事

- (1)平成26年度7月常務理事会議事録の承認について(承認)
- (2)世界選手権大会(リード、パラ)への派遣について(神経障害の2選手を除いて承認)
- (3)報告
  - ア 会計月次
  - イ アジア山岳連盟創立20周年記念総会・広島山岳平和祭について
  - ウ 平成26年度専門委員会常任委員候補者(案)について
  - エ 平成26年度雪崩災害防止功労者推薦について
  - オ 新型位置探査機「ヒトココ」のレンタルサービスについて
  - カ スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアムへの参画について
  - キ 指導・競技合同会議報告
  - ク 日本トレイルランニング会議結成集会報告
  - ケ「クライマー パタゴニアの彼方へ」プレミアム試写会について
  - コ JOCジュニアオリンピックカップ大会の年齢不正出場の顛末書について
  - サ 山岳共済会加入者の現状について
  - シ 日中韓技術交流研修会の準備状況について
  - ス 選手登録の現況報告
  - セ 後催国体(茨城、岩手)の申請認定について

### 2. 役員等の派遣について

- (1)JOC法人設立25周年記念の集い  
8月7日(木) 於：スポーツマンクラブ 尾形専務理事
- (2)登山部統合準備委員会 8月31日(日) 於：岸記念体育会館 八木原副会長、西内・仙石・瀧本・青木常務理事、北村理事、石倉委員長
- (3)日本山岳写真協会創立75周年記念式典祝賀会 9月6日(土) 於：東京・上野精養軒 八木原副会長
- (4)世界選手権(リード、パラ)  
9月8日(月)～14日(日) 於：スペイン・ヒホン リード：千葉監督他選手8名、パラ：北山・鈴木監督他選手10名、

- コーチ3名
- (5)山岳団体自然環境連絡会  
9月11日(木) 於：労山事務所 石倉委員長、徳永・松隈副委員長
  - (6)京才常務理事叙勲祝賀会  
9月23日(火) 於：リーガロイヤルホテル広島 神崎会長
  - (7)平成26年度中高年安全登山指導者講習会 9月26日(金)～28日(日)  
於：青森県・岩木山周辺 神崎会長、仙石・瀧本常務理事、
  - (8)平成26年度レスキュー講習会(無雪期・東部地区)  
9月26日(金)～28日(日) 於：国立登山研修所 西内常務理事

### 3. 後援、協賛等の依頼について

- (1)「山岳・辺境文化セミナー'2014」の後援 名義使用(広島県山岳連盟主催)回答済

### 4. 報告

- (1)指導員の認定承認
  - ①AC指導員  
赤梅琴美、金子政夫、北原秀明、笹川隆広、大山公明、佐伯和人(以上

長野県、6名)以上、承認

### 5. 専門委員会動静

7月常務理事会以降  
(7月10日～8月5日)

#### [報告]

- (1)自然保護委員会  
7月10日(木) 出席者15名  
ア 6月常任委員会議事録の確認  
イ 山岳団体自然環境連絡会(6/27)報告  
ウ 国際山岳自然保護会議(UAAA創立20周年記念事業)の運営について  
エ 広島山岳平和祭打合せ(6/18)報告  
オ 第38回自然保護委員総会について  
カ 第39回自然保護委員総会開催地候補(福島)について  
キ 自然保護委員会アンケートの集計経過について  
ク 自然保護指導員出前講座について  
ケ 第3階関東地区自然保護交流会の進捗状況について  
コ WG登山部統合準備委員会について  
(2)競技部合同委員会  
7月17日(木) 出席者13名  
ア JOCジュニアオリンピックカップにおける登録選手規程違反について  
イ 平成26年度競技部3専門委員会常任委員候補者について

## 寄贈図書

寄贈本	北日本新聞社出版部	「富山の百山」富山県山岳連盟編
	山と溪谷社	「ヤマケイアルペンガイドNEXT 山麓から登る 世界文化遺産 富士山」
	秩父山岳連盟・埼玉県警察山岳救助隊	「和名倉山二瀬尾根コース指導表設置作業記録報告書」
	雑誌(株)ネイチュアエンタープライズ岳人編集部	「岳人」2014年9月 No.807
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第566号
	横浜山岳会	「月刊山」986号
	(公財)健康。体力づくり事業財団	「健康づくり」No.436
	(公社)日本山岳会 自然保護委員会	「木の目 草の芽」第111号
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBC news」第513号
	La rivista del Club alpino italiano	「Montage」360
会報	明治大学山岳部炉辺会	「炉辺通信」No.176
	(公社)日本山岳会	「山岳」2014年 Vol.109
	山と溪谷社	「山と溪谷」2014年9月
	(公財)埼玉県体育協会	「スポーツ埼玉」2014 Vol.265
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2014.8.10 No.298
	FEDEM	「AUARIO」2013
	FEEC	「VERTEX」num265
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.475
	群馬県山岳連盟	「山岳 ぐんま」第102号
	和歌山県山岳連盟	「和岳連」第40号
	(公社)日本山岳会	「山」No.831
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.188
	中国登山協会	「山野 中国戸外」192期
	東京野歩路会	「山嶺」No.1014
	やまびこ山想会	「やまびこ」第155号
愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第409号	
常北山水会山岳部	「山水」第40号	
おいらく山岳会	「山行手帖」No.657	
(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース・フェアプレイニュース」2014年8月25日号	

- ウ 国体山岳競技施設認定規則改正の施行について
- エ 長崎国体実施要項の発送について
- オ 茨城国体山岳競技施設申請審査について
- カ 岩手国体山岳競技実施要項(案)審査について(提案内容で承認)
- キ I F S CクライミングWC印西2014の進捗状況について
- ク 第17回JOCジュニアオリンピックカップの進捗状況について
- ケ 全国ルート・セッター研修会(案)について(12名参加)
- コ「日本トレイルランニング会議」結成集会開催の進捗状況について
- サ 平成27年度アイスクライミング・ジャパンカップ開催の準備について
- シ パーソナルコーチ、トレーナーの登録について(報告)
- ス 世界選手権(ドイツ、スペイン)の派遣選手について(報告)
- セ 国体山岳競技規則集の印刷・製本について
- ソ 長崎国体の準備状況について
  - ・監督資格について
  - ・長崎：競技部資格審査(8/21)、資格審査(8/28~29)、申込み締め切り(9/3)
- タ 国体後催県の準備状況について
  - ・岩手：運営員養成特別研修会(8/24)、実施要項(案)協議
  - ・茨城：競技施設申請書の提出
  - ・鹿児島：正規視察(9/2)
- (3)遭難対策委員会
  - 7月30日(水) 出席者8名
- ア 日中韓技術交流研修会の準備について
  - ・準備状況の報告
  - ・予算の見直しと人員配置表作成
- イ 山岳レスキュー講習会の準備について
- ウ 全国山岳遭難対策協議会の報告
  - ・ヤマレコとのコンタクト
- エ ロープ強度テスト報告
  - ・フリクションノットなどを検証
- オ「ヒトココ」デモ機導入の件について
  - ・実行計画案について
- (4)ジュニア・普及委員会
  - 7月31日(木) 出席者6名
- ア ジュニア登山教室 in 立山2014に

- ついて
- ・参加者、準備、役割分担等について
- (5)指導委員会
  - 8月4日(月) 出席者13名
  - ア 7月の常任委員会議事録確認
  - イ 7月常務理事会報告
  - ウ ロープ試験報告
    - ・7/12~13、国立登山研修所、17名参加
  - エ 登山部統合準備委員会報告(7/12)
  - オ 指導・競技合同会議報告(7/14)
  - カ 指導委装備保管状況について
  - キ 指導委回報メールについて
    - ・新転送先：瀧本、蛭田、野村、鈴木(由)
  - ク 指導員認定申請について
    - ・資格再登録申請(長野)：一ノ瀬雄三、二木港雪
    - ・指導員認定申請(長野)：赤梅琴美、金子政夫、北原秀明、笹川隆広、大山公明、佐伯和人
  - ケ 日中韓技術交流研修会について
  - コ 指導常任委員研修会について
    - ・8/23~24、神奈川県山岳スポーツセンター、参加予定者9名、24日のみ参加予定5名
    - ・上級指導員養成講習会(氷雪)の結果判定協議
    - ・安全登山実践講座の開催協議
  - サ 登攀技術研修会(岡山)について

**6. その他の重要事項**

(7月11日~8月5日)

**[報告]**

- (1)登山部統合準備委員会 7月12日(土) 於：岸記念体育会館 八木原副会長、西内・仙石・瀧本・青木常務理事、北村理事、澤田・石倉委員長
- (2)平成26年度 toto助成金交付式・スポーツ交流会 7月16日(水) 於：セルリアンタワー東急ホテル 小野寺常務理事
- (3)山岳4団体懇談会
  - 7月16日(水) 於：うすけぼーチャイナ市ヶ谷 神崎会長、八木原・佐藤副会長、尾形専務理事
- (4)I F S CクライミングWC印西2014実行委員会 7月17日(木) 於：岸記念体育会館 森下常務理事
- (5)九州ブロック大会 7月19日(土)~

- 20日(日) 於：熊本市 神崎会長
- (6)沖縄県岳連打合せ 7月21日(月)~22日(火) 於：沖縄 神崎会長
- (7)広島山岳平和祭打合せ
  - 7月23日(水) 於：広島 神崎会長、尾形専務理事、京才常務理事、広島岳関係者
- (8)日中韓技術交流研修会打合せ
  - 7月23日(水) 於：岸記念体育会館 小野寺・西内常務理事
- (9)元参与の加藤昇様(神奈川県山岳連盟)ご逝去 7月25日(金)
- (10)青木常務理事のご尊父・栗原定四郎様ご逝去 7月28日(月)
- (11)山岳団体自然環境連絡会
  - 7月31日(木) 於：労山事務所 神崎会長、石倉委員長、徳永副委員長
- (12)平成26年度全国高等学校総合体育大会総合開会式 8月1日(金) 於：味の素スタジアム 神崎会長
- (13)「日本トレイルランニング会議」結成集会 8月2日(土) 於：岸記念体育会館 八木原・佐藤副会長、水島・仙石常務理事
- (14)第17回JOCジュニアオリンピックカップ 8月2日(土)~4日(月) 於：南砺市桜が池CC 神崎会長、森下常務理事、山本・北山各委員長
- (15)スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム 8月4日(月) 於：味の素ナショナルトレーニングセンター 尾形専務理事
- (16)全国ルート・セッター研修会 8月5日(火)~7日(木) 於：南砺市桜が池CC 森下常務理事、山本委員長

**編集後記**

今年の夏も雨が多く、お盆前後台風の接近や前線の通過で、計画変更をしたパーティが多かったと思う。残念ながら槍や穂高などで遭難事故が起きている。

これから行楽シーズンを迎え、体力と天候は早めの判断・行動を心がけ安全登山を。

(広報担当 水島彰治)

**登山月報 第546号**

定価 110円(送料別)  
 予約年間 1,300円(送料共)  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月1回15日発行)  
 発行日 平成26年9月15日  
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
 岸記念体育会館内  
 公益社団法人日本山岳協会  
 電話 03-3481-2396  
 F A X 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和町「時の茶屋」 TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

## あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

救助費用はタダではありません。  
山岳保険の加入は登山者のマナーです。

### ■平成 24 年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成 25 年 6 月 13 日)

発生件数 **1,988** 件 (前年対比 158 件増)

遭難者数 **2,465** 人 (前年対比 261 人増)

死者・行方不明者 **284** 人 (前年対比 9 人増)

詳しくは → <http://www.sangakukyousai.com>

お問い合わせは

**日本山岳協会 山岳共済会**

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター  
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707  
TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397  
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp  
U R L : <http://sangakukyousai.com>

東日本大震災復興支援「とどけよう スポーツの力を東北へ！」

# IFSCクライミングワールドカップ INZAI 2014 大会

## IFSC CLIMBING WORLD CUP INZAI 2014

Sponsored by HAKKAISAN & MAMMUT



期 日 2014年10月25日(土)～26日(日)  
会 場 印西市松山下公園総合体育館  
〒270-1367 千葉県印西市浦部275 電話0476-42-8417  
主 催 (公社)日本山岳協会(JMA)  
国際スポーツクライミング連盟(IFSC)公認リードW-cup第7戦  
主 管 IFSCクライミングWC印西2014実行委員会  
後 援 文部科学省、(公財)日本体育協会、(公財)日本オリンピック委員会、  
千葉県教育委員会、(公財)千葉県体育協会、印西市、印西市教育委員会、印西市体育協会、  
北総線沿線地域活性化協議会、毎日新聞社  
特別協賛 八海醸造(株)、MAMMUT SPORTS GROUP JAPAN(株)  
協 賛 三井住友海上火災保険(株)ほか  
日 程 【10月24日】選手受付 【10月25日】男女予選  
【10月26日】男女準決勝、決勝、表彰式・パーティ  
参加予定 イタリア、英国、オーストリア、オーストラリア、オランダ、カナダ、韓国、スペイン、  
スロベニア、スイス、台湾、チェコ、ドイツ、中国、フィンランド、フランス、ベルギー、  
ロシア他 約20カ国・地域80名  
事 務 局 (公社)日本山岳協会 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館  
電話：03-3481-2396 FAX 03-3481-2395 メール：info@jma-sangaku.or.jp

●大会当日には、JR成田線・木下駅と北総線千葉ニュータウン中央駅からシャトルバスを運行します

HP: <http://www.wc-inzai.jp/>

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



## 安心を売る仕事。

嵐の日でも 晴れの日も。  
つらいときも うれしいときも。  
わたしはあなたを見守っています。

わたしがあなたに  
売っているのは「安心」です。

安心できれば 挑戦できます。  
だからあなたは  
夢に向かって  
進みつづけてください。

どんなことが起きても  
わたしはあなたの味方です。

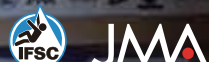
**MS** 私は  
agency 三井住友海上の  
代理店です。

[www.ms-ins.com](http://www.ms-ins.com)

# IFSC CLIMBING WORLD CUP INZAI 2014



IFSC CLIMBING WORLD CUP



World of  
Keep  
Climbing

主催：IFSC、(公社)日本山岳協会

SPONSORED BY HAKKAISAN & MAMMUT

# 10/25,26

千葉県印西市松山下公園総合体育館

#北総線千葉ニュータウン中央駅、成田線木下駅よりシャトルバスあり

10/25：女子予選 9：30～ / 男子予選 13：30～  
10/26：男女準決勝 9：30～ / 男女決勝 15：30～

※スケジュールは変更される場合があります。

後援：文部科学省  
(公財)日本体育協会  
(公財)日本オリンピック委員会  
千葉県教育委員会  
(公財)千葉県体育協会  
毎日新聞社  
印西市  
印西市教育委員会  
印西市体育協会  
北総線沿線地域活性化協議会

協力：千葉県山岳連盟

協賛：三井住友海上火災保険(株)

特別協賛：



DJ：Jazy Sport Crew

■チケット 25日 - 1000円、小学生以下 - 無料  
26日 - 2000円、小学生以下 - 500円、2日間通し券 - 2500円

<http://www.wc-inzai.jp/>

